

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2階フロア)

事業所番号	2790800086		
法人名	医療法人淀井病院		
事業所名	グループホーム マルベリー		
所在地	大阪市東住吉区桑津5-8-18		
自己評価作成日	平成28年5月10日	評価結果市町村受理日	平成28年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成28年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービス事業所として、理念・方針を職員全員が周知し、ご利用者・ご家族・地域の関わりの方の大切さを常に考えて施設運営をしています。防災に関しては、地域との連携をはかり、訓練にも継続してご参加頂いています。該当の地域包括支援センターとの連携も継続して充実しており、グループホームに関わるご利用者ご家族だけでなく、地域の介護サービスを利用していない方々への援助も拡大しています。地域活動では、若年性認知症の方への援助や認知症初期集中支援事業などの取り組みも強化され、お互いに協力して貢献できるようにしています。また、施設内の有料老人ホーム・小規模多機能ホーム・訪問介護等の事業所とも連携をはかり、ご利用者・ご家族にとって快適な生活、職員にとってもやりがいのある働きやすい職場環境を提供しています。

大阪・東住吉区で、長年にわたり地域で親しまれてきた淀井病院では、院長の息子さんがお年寄りの多い地域であることを考慮して、平成21年にリハビリ重視の老人保健施設「桑の実」を開設、翌年の平成22年度には病院の移設を機に、敷地跡に3階建ての建物を建設した。2階・3階にグループホームマルベリーを2ユニットにて開設、併設型で同じ階には住宅型有料老人ホーム、1階に小規模多機能型ホーム、訪問介護ステーションを立ち上げている。病院との24時間医療連携の下に開設2年目より看取りも行い利用者家族の希望も受け入れ、地域密着サービス事業所として地域に解けこんでいる。又104歳の最高齢入居者の穏やかな食事風景からもホームでの安定した暮らしがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・方針をもとに、職員と管理者は「～私の居場所～ひとりひとりが自分らしく笑顔で楽しく過ごす事ができる住まい」の理念を掲げ、様々な活動の中で共有しあい実践につなげている。	開設時管理者を中心に職員で話し合って作った理念を事務所前に掲示して日々の振り返りとし新人研修時にも活用している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との日常的な会話やふれあいを大切にし、ふれあい喫茶、出張ふれあい喫茶や夏祭り・近隣小学校での催し等の町会から枠を広げての地域行事に参加している。	町会に加入して情報を得て、月2回の地域のふれあい喫茶、2、3ヶ月に1回の出張ふれあい喫茶、お餅つき、夏祭りには、体調の良い利用者とは出かけて楽しんでいる。保育園、中学校とはフェスティバルなどの催し時に交流し、ボランティアの受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人への情報提供として必要に応じ、援助方法を伝えたり、玄関先にはポスター掲示等をして相談を受け付けている。介護保険利用の無い方等にも地域機関と連携して援助に携り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて話し合い、提案された意見を取り入れ、地域とのかかわりや事業所内でのサービス向上に活かしている。防災に関する要望やサービス利用に関する質問にも各機関と連携して応えるようにしている。	年6回月の最終の金曜日の14時からと決め、出席者には利用者、家族、地域包括支援センター、地域代表、病院事務長、民生委員、老人保健施設施設長など延べ55人の出席のもと、困りごとや行事予定等を報告して意見をもらいサービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関し不明な点はそのつど地域包括支援センターや大阪市介護保険課や東住吉区役所に確認の連絡を行い、サービスの取り組みを伝えている。地域包括とは実情を伝える機会を設けている。	市の介護保険課、地域包括支援センターに制度の変化や加算などについてそのつど相談したり、施設のサービスの実情など報告している。見守りネットワーク事業にも登録して貰い参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には徹底して身体拘束防止の指導を行い、人権を守るよう配慮している。ご家族からの要望もあるが説明し理解を得ている。	年間の研修計画で内部・外部研修に参加して知識を深め、利用者の安全を優先して自由な暮らしを支援するため事業所の工夫や取り組みを示して家族と話し合い納得の上、玄関は開放しているが、ユニット間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部での勉強会にて全員が学ぶ機会を持ち 虐待防止に努めている。事業所内では正しい知識を共有している。管理者が職員との面談機会をもつことが虐待につながる事柄の早期発見にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が研修・勉強会にて学ぶ機会をもち、必要性のある方にはご家族や、地域包括支援センター・医療機関との連携を図り活用できるように各機関と協力して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前には施設内や居室の見学と同時に方針を説明し、なるべく主介護者だけでなく、ご本人に係る人すべてにご納得を頂ける様に努めている。介護保険改定時、変わった事を比較してわかりやすく説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の内容を掲示し、意見箱の設置やアンケートをとり意見を出して頂ける環境を作っている。運営推進会議での報告も必ず行い周知している。ご家族の要望に関しては職員全員で対応し、運営に反映させている。	年1回の防災訓練時に案内状を出して家族に参加を呼び掛け、訓練後には家族会を開催して意見交換を行っている。広報委員会から行事予定や出来事、職員の移動等を写真付で送付している。家族から出された意見、要望はミーティングで話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において各部署からの報告や運営に関する提案を聞き反映させている。また個別に6ヶ月に1回及び必要時の面談を行い意見を聞いたり反映出来るようにしている。	ケアの方法について毎月の全体会議、その都度開催のフロア会議、フロアミニカンファなどで現場の職員の意見を取り入れ運営に反映されている。年2回の個別面談も行い子育てや家庭の実情を聞いて話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのつど詳細が代表者へ伝わるような体制をとっており、職場環境の維持改善に努めている。ユニットや委員会リーダー等でやりがいをもち個々に責任を持てる係に配置し向上心をもって取り組めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修だけでなく法人内で連携を図り勉強会に参加。外部研修や同業者研修にも積極的に参加し、参加した職員はその後に施設内勉強会を開催し人に伝える・指導することをトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内介護保険事業所連絡会・小規模GH連絡会の活動に参加し職員がお互いの施設見学会にて交流。またGHだけでなく他事業所の職員とも連携を図りサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回ご相談よりご本人のお話を聞かせて頂く機会を何度か持つようにし、出来るだけ見学や体験を重ね納得頂き、職員とご利用者・家族の信頼を築ける様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と共に話を聞かせて頂く機会を何度か持つようにし、利用する事業所及び施設全体の見学をして頂いている。金銭管理や医療面、介護者としての悩みや気持ちを受け止められるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所系サービスを望まれていても、現在までの利用サービスを把握し、現在本当に必要なサービスは何かを話し合い、GH以外にも小規模多機能ホームや通所・訪問サービスの情報提供を各機関と連携して行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの関係を大切にし、一緒にすんでいるからこそできる日常生活を考え買物・掃除・洗濯・調理を行っている。行事等に、本人と家族共同での取り組みを取り入れ職員がその支えになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族をつなぎ支える役割を果たす為、お互いの気持ちを受け止めるようにしている。入居後も家族の役割を果たして頂ける様に、疎遠になりがちな方には近況報告を兼ねての手紙などでつないでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の馴染みの場所や人を把握し、積極的にその場所へ外出したり、ご家族のご協力のもとお知り合いのご面会を多くして頂いたり出来るだけ以前の生活に近い状態になるように配慮している。	地元からの利用者が多く友人がお菓子持参で立ち寄ったりこれまでの行きつけの美容院、商店街への買い物、行きつけの喫茶店など今までの生活の継続的な交流ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者がお互いに全員との関係を築く為に職員が介在し援助している。トラブルや危険予測を充分に行いそのつど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣にお住まいのご家族とも連絡をとったり、施設の行事等にお誘いしお話をさせて頂いている。他施設への移行の際も本人の生活習慣の継続が出来るように、事業者へ伝えて経過の連絡も密にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の協力のもと入居後もご自宅への訪問やその周囲の生活してきた場所へ出向き、暮らしてきた環境の把握に努めている。本人の忘れていた事も出向くことによって懐かしむ事も出来ている	病院や有料老人ホームからの利用者が多く自宅訪問は難しいが、情報収集には一部センター方式を取り入れて、一人一人の思いや、暮らし方の希望、意向の把握につとめ、意思表示できない人にも、しぐさ、行動、動きから汲み取り把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の今までの生活で知らない事も多いが、ご本人・ご家族及び関わりのあった友人やサービス事業者・医師等より情報収集を行い、これまでの生活歴を活かした暮らしになる様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での変化は職員がお互い情報交換を行い定期的なカンファレンス・ミニカンファレンスでも情報交換を行いセンター方式を用いたアセスメントにより総合的に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に出てくる。問題が発生した時の対応は出来ており日常の記録にも残している。モニタリングや家族との話し合いを常時おこない、他職種の見解も含め介護計画に反映させている。	個別支援計画作成時は利用者の担当を決めているがフロア全体の意見を聞いてモニタリング、カンファレンスを行い介護計画を短期は3ヶ月～6ヶ月、長期は1年毎に見直し家族に説明して話し合い同意をえている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は生活記録に記載し、利用者個々に分けて職員が共有できるようにしている。ミニカンファレンスを行い職員一人ずつの介護方法の見直しを行いながら日々の実践に活かし計画作成時の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や状況に応じて施設内の事業所や法人医療機関とも連携し援助を実施。地域のサービスを利用したり、ご利用者の知人の協力を得て柔軟な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までの暮らしで培ってきた関係を維持し、その場所へ出かけたりその人に関わることによってご自身の力が発揮できるような暮らしを考え実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人医療機関をかかりつけ医とする事に同意を得、主治医とは連携を常に図り訪問看護において日常の健康管理をしている。その他専門家医の必要性があれば以前のかかりつけ医等とも連携して受診できるようにしている。	利用者は淀井病院からのかかりつけが多く情報を共有しながらの、健康管理が行われている。心療内科、精神科へは基本家族が同行して通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模多機能ホームに勤務する看護師・法人医療機関・介護老人保健施設の看護部との連携を図り日常の健康管理実施。緊急時等も、指導指示のもと適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院医師・看護師・ご家族との連絡を密にし、GH内でできる支援を積極的に考え早期退院を考慮している。関係機関とは日頃から連携を図る様に配慮し退院計画を密に話し合えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアについて方針を定め、体制を整えている。現在までに対象者に対し、小規模多機能ホームには看護師を3～4回/W配置し、GHへの援助もできるようにしている。ケアについての医療行為・介護内容の説明は随時行いながら実施している。	契約時に看取りに関する指針を説明して同意を得ている。医師がその時と判断した時点で、重度化した場合における(看取り)指針を示し、施設として出来ることの説明を行い医療行為が常時必要となった時点で再度、医師を交えて話し合い対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で応急手当普及員資格者を配置し、1年に2回以上、利用者の急変に際した対応や正しい心肺蘇生法の勉強会を実施。その他に、日常的に、緊急時初期対応の訓練を取り入れ実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年に2回避難訓練を実施していると共に月1回の施設内訓練を実施。火災のほか、震災・水害の想定での訓練も含め実施予定(6/24)高齢者の避難は数種類の方法を検討し訓練実施。	マニュアルを作成し消防署の協力を得て年2回の避難訓練を行っている。地域住民や地域包括支援センターと連携を図りながら自主訓練もおこない協力体制を築いている。備蓄は三日分用意され、10分以内にかかけつけられる職員が10名位いる。自主訓練も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応も職員同士が注意しあえるような環境作りを行い人格を尊重することを一番に考えられるようにしている。、プライバシー保護にも充分注意をして努めている。職員の接遇面強化も取り組んでいる。	ケアのキーワードは信頼関係と心得て、まずは、本人の気持ちを大切に考えて自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。言葉遣いもただ丁寧だけではなく、利用者には、「さん」呼びの方もいるが昔の呼び名で呼んでいる方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のペースにあった話し方で接することを心がけ、ご利用者の思いをくみ取れるように「必ず聴く」という姿勢を大切にしている。意志表示が難しい場合は日常の様子との変化に気づき、くみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体機能的にも差があり、ユニットの中でも個別対応としその人のペースで支援している。本人の意向に添い日課に取り組む事で毎日のペースがつくれている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容に関してはご本人やご家族と相談して援助を行っている。おしゃれをしたい気持ちを大切に、近隣に馴染みの店もあることから職員がいっしょに化粧品や服を購入することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人差はあるが、楽しみが持てるように個々の出来ることの力(食材運び・食事準備・片づけ)に合わせて援助している。通常の業者だけでなく、近隣の店や弁当屋での購入も楽しんでいる	食材は管理栄養士がヶ月単位で立てたメニューのもと業者からクックチルド状態で運ばれてきたものを温めてミキサー食、ゼリー食、ソフト食にして職員と共に食べている。月一回、食材をストックし買い物に行き鍋物やお寿司など、利用者の好きなメニューに替えている。	食事は単に、栄養や食欲を満たすだけではなく、喜びや楽しみをもたらします。週に一回は業者の食材を止めて、職員と共に買い物に行き、一緒に調理をし、調理での音や匂いなどの五感刺激が欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患・体調・排泄状況・嗜好などを把握し必要摂取量を把握、記録している。疾患に影響する場合は法人内管理栄養士に相談、個々に応じた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは家族の関心も高まり、介護士が歯科医や歯科衛生士、看護師より学び日常のケアを実施している。長年、受診をしていない方も多く大きな治療になりうる事も多いので日頃からの観察・ケアを重視している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在までの生活の中での排泄の様子を把握するとともに、個々に応じ自立した排泄の援助をしている。介護度の高い方には負担のないオムツ使用方法を家族と相談してとりいれている。	生活記録表を元に自立に向けて尿意がない人にも独自のサインを見逃さず、完全自立は無理でも、一日に一回はトイレで排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての知識を職員全体が理解し、乳製品の摂取など個々に合わせた働きかけや散歩・運動の援助を実施している。看護師の指導のもと腹部マッサージ等もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者と相談し、入浴回数や日程を柔軟に決めている。その他、時間帯や入浴方法等も個々に合わせて支援している。年に数回、行事・季節の入浴を楽しんで頂いている。	入浴は週に2～3回と決めているが、毎日入浴の人もある。嫌がる人には、人を替え、時間を変えたりしながら、チームプレイにより粘り強く対応している。季節によりゆず湯、菖蒲湯などの入浴剤で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活歴を考慮し、1日の生活リズムを検討。ご本人の訴えであっても睡眠導入剤などの服薬に頼らず、工夫をして睡眠時間の確保を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに保管し変更時は必ずどの職員も確認できるようにしている。内服・外用薬共に効能や副作用・変化の状況を把握し確認するように努めている。飲み忘れや飲み間違いの事故も起こっていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の希望や心身の状況に合わせてレクリエーションに参加、家事等で役割をもって生活をして頂けている。心身の状態が重度のご利用者も毎日の生活に良い変化があり周囲との関わりが持てるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご意向に沿い、外出先や時間を考慮している。ほとんどの方の家族の協力は得られ、一緒に出かけられる支援を実施。馴染みの場所への外出、外食なども支援している。	季節を感じてもらうように散歩は一日に一回テラスに出たり、花に水をやるなど短時間でも戸外に出る機会を作り外出場面を、利用者と職員にとってのストレスの発散、五感刺激を得られる貴重なチャンスとし、積極的に外出している。お弁当を持っての遠出の外出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理でのご本人の状況を個々によく理解し、ご家族や後見人の方とも相談しながら、計画的にかつご本人が当たり前にお金を使える支援をしている。小額の支払いなどは出来るだけご本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族のご希望の場合は必ず支援。その他毎月のホームでの生活の報告を手紙で報告するなかでは本人の文書・絵画・工作などを取り入れ気持ちをつなぐ援助を実施。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂等には、その都度必要な家具をそろえご利用者の心身の状態に応じて配置している。テラスや1階玄関先では木や花を育て季節を感じて頂ける配慮をしている。不快になる	共用の生活空間は、居心地よく過ごせるように家庭的な雰囲気を大切にし、カレンダーや季節の花や風景を取り入れた作品が飾られ、くつろげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場だけでなくソファ等を配置し自由に過ごせる場所を提供している。ご自身の居室のフロアだけでなく、テラス・小規模多機能ホームのフロアや1階事務所で過ごすことも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものも持参、ご家族が希望されるもの等をよく相談し、ご本人が安全で使いやすいように心をかけている。愛着のあるものや居心地が良くなる物に関して積極的に取り入れるように説明している。	居室には、洗面台とクローゼットが備え付けられている。写真や仏壇、使い慣れた家具など馴染みのものが持ちれ、その人らしく居心地の良い温かい雰囲気をかもし出すようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者個々に応じての自立した生活に必要なものの工夫をおこない目印となるものの設置などで支援を行っている。		